

大杉谷国有林からの手紙

45通目

～樹木の開花とヤマザクラ～

今年も大杉谷国有林に春が訪れ、新芽や花に彩られた綺麗な景色を見ることができるようになってきました。そこで、今回の大杉谷国有林からの手紙では、様々な木の花の写真とともに、大杉谷に生きる樹木達についてご紹介します。

(1) 山の春を彩る紫のツツジ

春の時期、大杉谷国有林内に張り巡らされた大台林道を車で走行していると、林道端で写真1のような紫色の綺麗な花が咲き、全体が紫に色づいた木々を見ることができます。

これはコバノミツバツツジという木で、道沿いの植木などに植えられるサツキ（大杉谷からの手紙41通目で紹介）と同じツツジの仲間です。写真1にも載っているように、紫色の綺麗な花には様々な種類の昆虫たちがひっきりなしに訪れ、写真を撮るこちらには目もくれずに、せっせと蜜集めに勤しんでいました。この種は葉よりも先に花を展開する種なので、冬が過ぎて春先にお腹を空かせた虫たちはこの紫の花が咲くのを心待ちにしているのかもしれませんがね。また蜜集めの際には体にたくさんの花粉をまといながら花々を移動するため、ツツジや他の種にとって花粉媒介に必須の役割を果たしており、両者ともに Win-Win の関係性を築いています。



写真1 せっせと蜜集め中



写真2 アセビの小さな白い花

(2) アセビの小さな白い花

その後山の中を歩いていると、スズランの花の様な、白くて小さな花をたくさん付けている木を見つけました。

これはアセビという木の花で、アセビを漢字で書くと「馬酔木」となり馬が食べると毒によりふらつき、お酒に酔ったようになることから名付けられました。

葉や樹皮も食べてしまうシカでさえこの木は食べません。しかし、シカが増えすぎた山では、普段食べる食べ物が無くなってしまい、シカ達も生きるために必死で、選り好みして食べない植物も仕方なく食べるようになるそうです。

アセビを嚙^{かじ}ってあきらめたような葉を見たことがあり、シカの個体数が増えすぎて、背に腹は代えられない状況にシカ達が陥っていることが示唆されました。

(3) 黄色いミツマタの花

別の場所にいくと、今度はミツマタの黄色い花が谷に咲き乱れ、圧巻の景色を見せてくれました。写真3の一番手前にあるぼんぼりみたいな物1つが大きな花ではなく、小さな花が30~50個程度集まって塊を形成しています。小さい花ですがちゃんと種子もでき、数ミリ単位の種を周囲に散乱して生育地を広げているようです。

ミツマタという名前の由来は幹の分かれ目が必ず三つ叉に分かれるからです。ミツマタは樹皮の繊維がとても強い為、和紙や紙幣の原料として植栽された歴史があります。



写真3 ミツマタの花咲き乱れて



写真4 ミツマタあまりおいしくない…

以前、繊維がどのくらい強いのか試すため、ミツマタを手でちぎってみましたが、樹皮が途中では切れず、固くてごわごわしていました。

ミツマタはアセビとは違い毒は持っていませんが、シカが食べない不嗜好性（ふしこうせい）植物だと考えられています。ごわごわして食べにくいから嫌なのでしょうね（写真4）。

ミツマタなどの林内の下層植生を観察すると、その場所での情報を沢山知ることができます。皆さんもじっくり観察してみるとより興味深い発見があるかもしれませんね。

(4) 日本の伝統 ヤマザクラ

最後に日本の春の代名詞とも言える桜についてご紹介します。

大杉谷国有林には写真5の様に赤い葉と白い花が同時に開くヤマザクラが至る所に成育しており、春の大杉谷を桃色に彩ってくれています。

ヤマザクラ (*Cerasus jamasakura*) は日本に生育する桜の原種の1つです。種名を日本語で読むと「邪魔桜」となるため、少しかわいそうな名前ですが、多くの桜の栽培品種の生みの親として重宝されており、「縁の下の力持ち」という言葉がぴったりの桜です。確かに他の桜と比べると派手さはありませんが、品のある美しさがこの種の魅力の1つです。



写真5 ヤマザクラの赤い葉と白い花



写真6 遠くから見た、桃色に染まるヤマザクラ

さて皆さんに「桜といえど？」と問いかけると、有名なソメイヨシノを連想される方がほとんどだと思います。

実はソメイヨシノについては江戸時代末期に東京の染井村（現在の東京都豊島区）で人工的に交配した桜を、奈良県吉野山のヤマザクラに見立てて、「吉野桜」として売り出したのが始まりとされています。

このことから、江戸時代までの日本人が見ていた桜の多くはヤマザクラであり、平安時代などの有名な歌人達の多くが、ヤマザクラ

を見て感動し、そのときに詠んだ桜の和歌が後生に伝わっています。

ヤマザクラは長寿としても知られており、長いもので500年ほど生きる個体もあるため、何世代にもわたり同じヤマザクラの美しさを共有する事ができるのも、大きな魅力だと思います。これから山に行かれる際にヤマザクラを見かけたら、赤い葉と白い花により桃色に染まるこの桜の美しさ（写真6）や長い歴史を感じていただければ嬉しいです。

まとめ

大杉谷では4月9日～10日に登山道の整備を兼ねた合同登山パトロールが行なわれ、4月17日から開山し11月23日の間、大杉谷登山道が通行可能となっています。そのため今回紹介した花々にも興味を持って頂き、是非とも大杉谷の素晴らしい自然を楽しんでいただければと思います。

ただし最近のコロナウイルスの現状を踏まえ、登山道入り口への往復バス、山小屋等を休止する措置が講じられているため、登山の際には大杉谷登山センターのHP <<https://www.oosugidani.jp/>>をご確認の上、安全第一で登っていただきますようお願いいたします。

長文となりましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。

編集：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 係員
発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官

参考文献

- ・樹に咲く花 合弁花・単子葉類・裸子植物, 2001, 山と山溪社 P70~71、P126~127
- ・樹に咲く花 離弁花1, 2001, 山と山溪社 P508~511
- ・樹に咲く花 離弁花2, 2001, 山と山溪社 P590~591
- ・葉で見分ける樹木（増補改訂版）, 2010, 小学館, P59~61, P83, P120~121, P128
- ・森の花を楽しむ101のヒント, 2005, 日本森林技術協会, P28~29, P156~157
- ・日本におけるニホンジカの採食植物・不嗜好性植物リスト, 2014, 人と自然 P133~160
- ・森林における鳥獣被害対策のためのガイド, 2014, 林野庁森林保護対策室
- ・アセビの花に含まれる有毒物質, 岡山大農学報, 1973, P55~62